



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Effectiveness Study of Social Media Influencers for Destination Marketing : Application of the Self-Congruity Theory on Generational Comparison [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	ONG, Yi Xuan
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第14857号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/85195">https://hdl.handle.net/2115/85195</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	doctoral thesis
File Information	Ong_Yi_Xuan_review.pdf, 審査の要旨



## 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）

氏名：Ong Yi Xuan

審査委員	主査	准教授	張	ジュヒョク
	副査	教授	中川	理
	副査	教授	伊藤	直哉

## 学位論文題名

### **Effectiveness Study of Social Media Influencers for Destination Marketing:**

#### **Application of the Self-Congruity Theory on Generational Comparison**

(デスティネーション・マーケティングのためのソーシャル・メディア・インフルエンサー効果研究

ーセルフ・コングリユイティ理論の世代比較への適用ー)

近年のテクノロジーの進化は、ソーシャル・メディア・インフルエンサー (SMI) を活用したマーケティングを着実に成長させている。商品やサービスに留まることなく、観光地や旅行商品に対しても、ソーシャル・メディア・インフルエンサーは効果的なエンドーサーであると認識され、マーケティング成果の達成にますます活用され始めているのが実状である。SMI の実践が進展するのに伴い、2016 年を境に、様々な分野において SMI マーケティングの研究が盛んに行われるようになってきている。SMI 先行研究を概略すると、社会心理学や行動心理学概念によるアプローチ（自己一致、サブソーシャル関係、羨望等）、ブランド認知、購入意図、ブランドロイヤルティ等への効果アプローチ等、多様なアプローチからの基礎メカニズム研究が行われている。広告・通信業界における SMI マーケティング研究の成長に比較し、観光・ホスピタリティ分野における研究はさほど進展していないのが実状である。COVID-19 によるパンデミックは特に国際旅行業界に深刻な影響を与え、WTO 試算によれば、国際観光客数は 70%以上の減少が予測されている。このような厳しい現実の中、消費者は SMI デスティネーション・マーケティングをどのように受け入れ、また、COVID-19 パンデミック後の旅行意図にどのような影響を与えているのかを考察している論考が少ないのは当然とも言える。本論考は、このような研究課題に答えるため、敢えて挑戦的に試行されている論考であるとも言える。

本論の第 1 章から 3 章までは、研究背景や先行研究を通じた研究の現状、研究目的等が述べられている。特に基幹理論である Petty & Cacioppo (1986)の精緻化見

込みモデル(Elaboration Likelihood Model : ELM)が検討され、その基幹理論に Mitchell and Olsen (1981)の広告態度モデル(Attitude-toward-ad Model)、Ajzen (1991)の計画行動理論(Theory of Planned Behavior)が接合された、拡張 ELM が検討されている。この拡張 ELM においては、従来の中心ルートと周辺ルートの 2 ルートの支配性が検討されるのみに留まらず、Destination Image の検討、Self Congruity の検討、X・Y それぞれの世代間格差の検討、Para-Social 関係の検討等が行われ、博士論文としては破格の充実した検討が行われている。引き続き第 4 章では調査方法に関する概説が、第 5 章では収集データの記述統計が示され、第 6 章ではその分析が行われている。

以上のような本研究に対し、博士論文審査委員会からは、いくつかの熱い質疑応答がなされている。Advertisement disclosure の有無に関する結果への影響に関しては、SMI 活動の根幹に係る問題でもあり、熱心に質疑応答が繰り返された。また、当初仮説と異なる結果に関する推定理由等の議論も行われたが、筆者からは十二分な論拠と共に、質の高い独創的な応答がなされ、審査委員会一同、その内容に十二分な価値を見出したところである。

以上の審査結果をもとに、本論考に対して審査委員会は慎重な議論と検討を行った。その結果、本研究の学術的意義、方法論的信頼性と妥当性は十分であり、学問的貢献、実務的貢献においても、その意義や波及効果は十二分に高いものと判断した。なお、わが学院始まって以来の短縮修了学生であるが、そのレベルは、一般的博士論文レベルをはるかに凌駕するものであるという評価で一致した。そこで、本審査委員会は、本研究を北海道大学博士(学術)に相応しい学術論文であることを全会一致でここに認め、その結果をここに報告するところであります。